

1 研究主題

「どきどき わくわく 学びがいっぱい!」 ～子どもの心が動く環境について考える～

2 研究の具体

(1) 研究の目的

グローバル化の進展と技術革新等、社会の在り方そのものも大きく変化している予測が困難な時代の中で、その社会を担う子どもたちには、一人一人が自分なりの幸せを感じながら生きていってほしい、また、様々な状況に主体的に向き合い、周りの人と協働しながら自分たちで未来を切り拓いていってほしいと思う。

このような姿は、子どもが様々な環境に、どきどき わくわく心を動かし、自分が「やってみたい!」と自分のしたいことを実現していく中で少しずつ育まれていくのではないかと考えた。そこで本研究では、子どもの遊ぶ姿から、その内面を丁寧に読み取り、学びを分析しながら、どのような環境に心が動いているのかを探り、子どもの心が動く環境の構成や保育者の援助について評価、改善を積み重ね「どきどき わくわく 学びがいっぱい!」の保育の創造に取り組んでいきたい。

(2) 研究の内容

- ①どきどき わくわく子どもの心が動く環境の構成と保育者の援助について探る
- ②環境への興味や関心、資質・能力の育ちなど幼児理解を深め、保育者の指導力の向上を目指す

(3) 研究の方法

- ①子どもの心が動いている瞬間のエピソードを記録し、次の視点から分析する
  - ・子どもはどのようなヒトやモノ、コトに、どのようなトキに興味や関心をもったか
  - ・遊びの中で子どもはどのような学びを得たか
- ②保育カンファレンスを通して、心が動く環境の構成のポイントを探る
  - ・どのように環境の構成を工夫したか
  - ・環境の構成についての評価と改善を踏まえた環境の再構成
  - ・再構成した環境と遊びの再評価
- ③研究の成果をまとめ、教育課程、年間指導計画を見直す

3 研究の構想



4 研究のまとめ

- (1) どきどき わくわく子どもの心が動く環境の構成のポイントについて
- ①安心して自分を出せる環境
  - ②心通わせる友達や保育者の存在
  - ③やりたいことに思う存分向かえる十分な時間や空間
  - ④自分たちで選び、自由に使える様々な素材や道具
  - ⑤偶発的な出来事が起きた、その時、その瞬間も大切な環境
  - ⑥子どもたちの感性や自由な発想があふれる環境
- (2) どきどき わくわくを支える保育者の援助のポイントについて
- ①資質・能力が育まれている姿やヒト、モノ、コト、トキの視点から心の動きを探る
  - ②心が動くタイミングを見逃さずに
  - ③子どもの視点に立ち、柔軟に捉え、可能性を探る
  - ④思いを巡らせる過程を大切に
  - ⑤子どもの姿や援助を多角的に考える
  - ⑥心が動く環境を刷新し続けていく